

2020年11月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年7月13日

上場会社名 株式会社ティムコ
 コード番号 7501 URL <https://www.tiemco.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 酒井 誠一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長 (氏名) 中山 芳忠

TEL 03-5600-0122

四半期報告書提出予定日 2020年7月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年11月期第2四半期の業績(2019年12月1日～2020年5月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年11月期第2四半期	1,074	29.4	106		104		157	
2019年11月期第2四半期	1,522	3.6	38	37.5	41	35.8	26	42.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年11月期第2四半期	63.71	
2019年11月期第2四半期	10.78	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年11月期第2四半期	5,685	4,582	80.6	1,850.20
2019年11月期	5,790	4,776	82.5	1,928.86

(参考)自己資本 2020年11月期第2四半期 4,582百万円 2019年11月期 4,776百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年11月期		0.00		12.00	12.00
2020年11月期		0.00			
2020年11月期(予想)					

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年11月期の期末配当予想は未定としております。

3. 2020年11月期の業績予想(2019年12月1日～2020年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期									

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が業績に与える影響が不透明であり、合理的な業績予想の算定が困難なため、業績予想を未定としております。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年11月期2Q	3,339,995 株	2019年11月期	3,339,995 株
期末自己株式数	2020年11月期2Q	863,445 株	2019年11月期	863,445 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年11月期2Q	2,476,550 株	2019年11月期2Q	2,476,550 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項は、[添付資料] P 3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(自2019年12月1日 至2020年5月31日)における日本経済は、新型コロナウイルスの感染急拡大に伴う政府の緊急事態宣言(4月7日~5月25日)に起因して、長期にわたり活動の自粛が行われました。この影響により日本経済は深刻なダメージを受け、多くの業種で景況感が大幅に悪化する形となりました。個人消費については、需要の高まった日用品など一部の業態で改善が見られるものの、休業要請対象施設となった、百貨店、ショッピングセンター、大型小売店舗、飲食店などの売上が大きく落ち込むこととなりました。

当社の関連するアウトドア関連産業においては、釣用品市場、アウトドア衣料品市場ともに、商業施設の休業や需要低迷の影響が色濃く、消費を大幅に押し下げる展開となりました。

このような状況の中、当社では収益低下に対応する取り組みを行ってまいりましたが、新型コロナウイルスによる休業や営業活動の自粛が影響し、当第2四半期の売上高は10億74百万円(前年同期比29.4%減)となりました。

また、販売費及び一般管理費の削減に努めたものの、売上高及び売上総利益の大幅な減少を補うに至らず、営業損失は1億6百万円(前年同期間 営業利益38百万円)、経常損失は1億4百万円(前年同期間 経常利益41百万円)となりました。さらに、新型コロナウイルスの影響により、直営店舗の臨時休業等による損失39百万円を特別損失に計上したため、四半期純損失は1億57百万円(前年同期間 四半期純利益 26百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

(フィッシング事業)

フィッシング事業に関しては、暖冬傾向が釣行にプラスに作用し販売を底支えする展開も見られましたが、新型コロナウイルスの影響による外出の手控え、新製品のプロモーションを目的としたイベントの自粛、大型専門店の休業などの反動を受け、販売が低迷する展開となりました。

まず、ルアー用品に関しては、販売エリア毎に適材適所のアイテムのセールスに注力いたしました。また、フライ用品に関しては、動画配信等のプロモーション効果により一部の新製品が好調に推移していましたが、いずれも4月からの外出自粛の影響を受け、消費が低迷し売上高は前期を大きく割り込む結果となりました。

これらにより、当第2四半期におけるフィッシング事業の売上高は、4億10百万円(前年同期比16.4%減)となりました。また、セグメント利益(営業利益)は48百万円(前年同期比30.7%減)となりました。

(アウトドア事業)

アウトドア事業に関しては、前年同時期に比べて暖冬傾向となり、ジャケット等の防寒重衣料の販売が低調に推移したことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、主要販路である百貨店やショッピングセンターが休業を余儀なくされたため大幅な売上減少の影響を受けることとなり、春夏物の販売も停滞いたしました。また自社オンラインストアでは早期マークダウン(値引販売)等により、前年同期比44.1%増の売上の伸びを示しましたが、売上高の低下を補うには至りませんでした。

その結果、当第2四半期におけるアウトドア事業の売上高は6億50百万円(前年同期比35.9%減)となりました。また、売上総利益の減少に連動して、セグメント損失(営業損失)は39百万円(前年同期間 セグメント利益(営業利益) 84百万円)となりました。

(その他)

その他の主な内容は、不動産賃貸収入売上であります。当第2四半期に関しては、賃貸面積の減少等により、その他売上高は13百万円(前年同期比17.4%減)となりました。また、セグメント利益(営業利益)は8百万円(前年同期比25.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の資産は、前事業年度末に比べ1億4百万円減少し56億85百万円となりました。流動資産は、季節的な要因及び新型コロナウイルス感染拡大に伴う売上の減少などによる商品の増加3億47百万

円などの一方で、現金及び預金の減少3億77百万円や受取手形及び売掛金の減少1億64百万円などの影響により、前事業年度末に比べ1億53百万円減少し、38億93百万円となりました。

固定資産は、有形固定資産や無形固定資産の取得による増加79百万円などの一方で、有形固定資産や無形固定資産の減価償却などによる減少34百万円などの影響により、前事業年度末に比べ48百万円増加し、17億91百万円となりました。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ89百万円増加し11億3百万円となりました。

流動負債は、仕入が集中する季節的な要因により支払手形及び買掛金が1億1百万円増加したことや短期リース債務の増加5百万円などの一方で、返品調整引当金の減少16百万円や未払消費税等の減少16百万円、未払金の減少14百万円などの影響により、前事業年度末に比べ60百万円増加し、8億35百万円となりました。

固定負債は、長期リース債務の増加19百万円や退職給付引当金の増加5百万円、長期資産除去債務の増加3百万円などの影響により、前事業年度末に比べ29百万円増加し2億67百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ1億94百万円減少し、45億82百万円となりました。

これは主に、四半期純損失1億57百万円の発生や前事業年度決算の配当支出29百万円やその他有価証券評価差額金の減少7百万円などによるものです。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ3億79百万円減少し、1億90百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、3億13百万円(前年同四半期の使用した資金は64百万円)となりました。これは主に、売上債権の減少1億64百万円、仕入債務の増加66百万円、減価償却費28百万円などによる資金の増加の一方、税引前四半期純損失1億43百万円、たな卸資産の増加3億51百万円、未払消費税等の減少54百万円、返品調整引当金の減少16百万円、その他流動負債の減少13百万円などによる資金の減少によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、34百万円(前年同四半期の使用した資金は18百万円)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出13百万円と無形固定資産の取得による支出19百万円などによる資金の減少によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、32百万円(前年同四半期の使用した資金は38百万円)となりました。これは主に、前事業年度決算に係る配当金による支出29百万円とリース債務の返済による支出2百万円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルスの感染症の拡大防止に伴う外出自粛要請による消費需要の大幅な落ち込みに加え、政府より緊急事態宣言が発出されたことにより、特にアウトドア事業の主要販路である百貨店やショッピングセンターが休業要請の対象施設となり、休業や営業時間の短縮等の実施が売上に大きく影響する状況となりました。また、6月以降の売上回復の見通しにつきましても依然として不透明であることから、2020年11月期の業績予想については、現状合理的な算定が困難なため、「未定」とさせていただきます。今後、合理的な算定が可能となった時点で改めて公表いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年11月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,008,651	1,631,044
受取手形及び売掛金	564,497	399,846
商品	1,429,863	1,777,428
その他	46,677	86,734
貸倒引当金	△2,097	△1,168
流動資産合計	4,047,592	3,893,885
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	530,838	546,564
土地	653,376	653,376
その他(純額)	10,584	37,582
有形固定資産合計	1,194,799	1,237,523
無形固定資産	11,686	32,671
投資その他の資産	536,758	521,786
固定資産合計	1,743,244	1,791,982
資産合計	5,790,836	5,685,868
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	571,391	672,725
未払法人税等	21,741	20,149
返品調整引当金	41,615	25,301
賞与引当金	1,525	1,386
その他	138,913	116,368
流動負債合計	775,187	835,931
固定負債		
退職給付引当金	152,149	157,730
その他	86,575	110,077
固定負債合計	238,724	267,808
負債合計	1,013,912	1,103,739
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,079,998	1,079,998
資本剰余金	3,861,448	3,861,448
利益剰余金	298,246	110,749
自己株式	△478,034	△478,034
株主資本合計	4,761,659	4,574,162
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,265	7,966
評価・換算差額等合計	15,265	7,966
純資産合計	4,776,924	4,582,128
負債純資産合計	5,790,836	5,685,868

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自2018年12月1日 至2019年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自2019年12月1日 至2020年5月31日)
売上高	1,522,167	1,074,830
売上原価	825,696	595,426
売上総利益	696,470	479,403
返品調整引当金戻入額	32,533	41,615
返品調整引当金繰入額	11,788	25,301
差引売上総利益	717,215	495,716
販売費及び一般管理費	678,530	602,704
営業利益又は営業損失(△)	38,685	△106,987
営業外収益		
受取利息	780	962
受取配当金	655	722
為替差益	1,372	921
その他	311	368
営業外収益合計	3,119	2,975
営業外費用		
その他	6	12
営業外費用合計	6	12
経常利益又は経常損失(△)	41,798	△104,024
特別損失		
固定資産除却損	0	0
臨時休業等による損失	-	39,067
特別損失合計	0	39,067
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	41,798	△143,092
法人税、住民税及び事業税	12,080	7,214
過年度法人税等	2,741	-
法人税等調整額	290	7,471
法人税等合計	15,112	14,686
四半期純利益又は四半期純損失(△)	26,685	△157,778

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2018年12月1日 至2019年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自2019年12月1日 至2020年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	41,798	△143,092
減価償却費	36,554	28,755
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△157	△928
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△20,745	△16,313
賞与引当金の増減額(△は減少)	△131	△139
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,684	5,581
受取利息及び受取配当金	△1,435	△1,685
為替差損益(△は益)	414	△124
固定資産除却損	0	0
臨時休業等による損失	-	39,067
売上債権の増減額(△は増加)	△36,678	164,650
たな卸資産の増減額(△は増加)	△208,081	△351,199
仕入債務の増減額(△は減少)	143,963	66,859
未払消費税等の増減額(△は減少)	△18,695	△54,208
その他の流動資産の増減額(△は増加)	599	△1,001
その他の流動負債の増減額(△は減少)	6,755	△13,520
その他	359	2,521
小計	△52,795	△274,778
利息及び配当金の受取額	1,451	1,696
臨時休業等による損失の支払額	-	△35,265
法人税等の支払額	△13,433	△4,672
営業活動によるキャッシュ・フロー	△64,777	△313,019
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,188,400	△1,191,800
定期預金の払戻による収入	1,186,600	1,190,200
有形固定資産の取得による支出	△15,858	△13,443
無形固定資産の取得による支出	△1,150	△19,282
敷金及び保証金の回収による収入	180	129
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,628	△34,195
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△9,144	△2,420
配当金の支払額	△29,472	△29,695
財務活動によるキャッシュ・フロー	△38,617	△32,116
現金及び現金同等物に係る換算差額	△414	124
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△122,436	△379,206
現金及び現金同等物の期首残高	783,711	569,351
現金及び現金同等物の四半期末残高	661,275	190,144

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大やそれに伴う緊急事態宣言が発出された影響により、2020年3月以降のイベントの自粛やお取引先の大型専門店の休業等により来店客数の減少が顕著に表われ、お取引先や直営店舗(フォックスファイヤーストア)の営業時間の短縮及び休業等により、売上高及び営業利益が著しく減少しております。緊急事態宣言解除後において、お取引先や直営店各店は順次営業が再開され、外出の自粛による巣ごもりからの反動から急速に販売が回復しつつある店舗も出てきております。

当該新型コロナウイルス感染症の影響は、少なくとも2020年7月までは外出自粛の状況が続き、それ以降徐々に回復が進み年内には収束する方向にあるものと想定して、固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性の会計上の見積りを行っております。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第2四半期累計期間(自 2018年12月1日 至 2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	フィッシング 事業	アウトドア 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	491,188	1,014,625	1,505,814	16,353	—	1,522,167
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	491,188	1,014,625	1,505,814	16,353	—	1,522,167
セグメント利益	70,342	84,040	154,382	11,483	△127,180	38,685

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2 セグメント利益の調整額△127,180千円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に管理部門等の一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第2四半期累計期間(自 2019年12月1日 至 2020年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	フィッシング 事業	アウトドア 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	410,529	650,796	1,061,326	13,503	—	1,074,830
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	410,529	650,796	1,061,326	13,503	—	1,074,830
セグメント利益又は損失(△)	48,735	△39,183	9,551	8,602	△125,141	△106,987

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△125,141千円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に管理部門の一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っています。